

【2026 年度/専門科目領域/専門科目群/リハビリテーション学科 理学療法学コース】

科目名	ナンバリング	区分(必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等
物理療法学	PSP33-008	必修	2	3	前期
担当教員	研究室	電子メール ID		オフィスアワー	
三科 貴博 他	D317	t-mishina		火曜日 12:10~13:00	
授業の目的・概要	理学療法の治療手技の一つである物理療法に関する専門基礎知識を身につけ、患者に対して物理療法を安全かつ効果的に実施する能力をつける。そのために、物理療法学では、講義にて物理療法の各手技について講義し、そのメカニズムや治療効果、適応・禁忌事項について学ぶ。その後、少人数のグループに分かれて、実務経験のある教員の指導のもと実習を行い、知識・技術の定着を図る。				
授業形式・方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面授業 <input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> PBL <input type="checkbox"/> 反転授業 <input type="checkbox"/> ディスカッション・ディベート <input type="checkbox"/> 遠隔授業(双方向型) <input checked="" type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技 <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input checked="" type="checkbox"/> 実習・フィールドワーク <input type="checkbox"/> 遠隔授業(自主学習) <input type="checkbox"/> その他 ()				
学習上の助言	授業内容に関する質問は、授業中やオフィスアワーだけではなく、チャット等においても受け付けている。積極的に質問して疑問を解決し、理解を深めて欲しい。				
教科書	物理療法学 編集：吉田英樹 出版社：メジカルビュー社				
参考書	指定参考書なし				
外部教材	特になし				
学生が達成すべき行動目標				関連卒業認定・学位授与方針	
①	物理療法に関する知識を理解し、説明できる。			RH (2), (3)	
②	疾患に対する適応・禁忌を判断し、適切な物理療法手技を選択・実施できる。			RH (2), (3)	
③	物理療法機器の作動原理、メカニズムを理解し、操作やメンテナンスを実行できる。			RH (2), (3)	
④					
⑤					
⑥					
授 業 計 画					
回	学習内容等		授業の方法	学習課題・学習時間(時間)	
1	オリエンテーション	[担当] 三科	講義	教科書(p.1~23)を読み、鎮痛について予習する。	
2	温熱療法①：熱の伝達様式や種類、温熱の生理学について学ぶ	[担当] 三科	講義	教科書(p.1~23)を読み、鎮痛について予習する。	
3	温熱療法②：比熱、熱伝導率について学ぶ。ホットパックの使用方法を学ぶ。	[担当] 三科	講義	教科書(p.25~36)を読み、ホットパック等について予習する。	
4	温熱療法②：比熱、熱伝導率について学ぶ。ホットパックの使用方法を学ぶ。	[担当] 三科	講義	教科書(p.25~36)を読み、ホットパック等について予習する。	
5	温熱療法③：パラフィン浴、超短波と極超短波療法の効果、使用方法を学ぶ。	[担当] 三科	講義	教科書(pp.37~53)を読み、超短波療法等について予習する。	
6	温熱療法③：パラフィン浴、超短波と極超短波療法の効果、使用方法を学ぶ。	[担当] 三科	講義	教科書(p.37~53)を読み、超短波療法等について予習する。	
7	温熱療法④：超音波の発生原理、超音波療法の効果、使用方法を学ぶ。	[担当] 三科	講義	教科書(pp.56~77)を読み超音波療法について予習する。	
8	温熱療法④：超音波の発生原理、超音波療法の効果、使用方法を学ぶ。	[担当] 三科	講義	教科書(pp.56~77)を読み超音波療法について予習する。	
9	物理療法実習①-1：温熱療法機器の操作やメンテナンス方法を習得し、実施方法について学ぶ。	[担当] 源・石井・三科	講義	1~8 回目の講義内容を復習し、実習の準備を行う。	
10	物理療法実習①-1：温熱療法機器の操作やメンテナンス方法を習得し、実施方法について学ぶ。	[担当] 源・石井・三科	実習・GW	1~8 回目の講義内容を復習し、実習の準備を行う。	
11	物理療法実習①-2：温熱療法機器の操作やメンテナンス方法を習得し、実施方法について学ぶ。	[担当] 源・石井・三科	実習・GW	1~8 回目の講義内容を復習し、実習の準備を行う。	
12	物理療法実習①-2：温熱療法機器の操作やメンテナンス方法を習得し、実施方法について学ぶ。	[担当] 源・石井・三科	実習・GW	1~8 回目の講義内容を復習し、実習の準備を行う。	

【2026 年度/専門科目領域/専門科目群/リハビリテーション学科 理学療法学コース】

13	寒冷療法：寒冷療法のメカニズムや各種手技、適応と禁忌を学ぶ。	[担当] 三科	講義	教科書 (pp.79～93) を読み寒冷療法について予習する。
14	牽引療法：頸椎・腰椎牽引について学ぶ。	[担当] 石井	講義	教科書 (pp.249～260) を読み、牽引療法について予習する。
15	振動刺激療法：振動刺激療法のメカニズムや手技を学ぶ。	[担当] 三科	講義	教科書 (pp.262～276) を読み、振動刺激療法について予習する。

回	学習内容等		授業の方法	事前事後学習内容・必要時間 (時間)
16	ロボットリハビリテーションの適応と効果について学習する。	[担当] 三科	講義	教科書 (p.294～305) を読み、ロボットリハについて予習する
17	水治療法：水治療法のメカニズムと効果、各種手技を学ぶ。	[担当] 三科	講義	教科書(p.96～112)を読み、水治療法について予習する。
18	水治療法：水治療法のメカニズムと効果、各種手技を学ぶ。	[担当] 三科	講義	教科書(p.96～112)を読み 水治療法について予習する。
19	光線療法：赤外線、レーザー、紫外線療法の効果や 治療方法について学ぶ。	[担当] 石井	講義	教科書 (p.115～144)を読み、光線療法について予習する。
20	電気刺激療法：TENS、TES、FES の各種手技を学ぶ	[担当] 石井	講義	教科書 (p.159～235) を読み、電気刺激療法について予習する。
21	電気刺激療法：TENS、TES、FES の各種手技を学ぶ	[担当] 石井	講義	教科書 (p.159～235) を読み、電気刺激療法について予習する。
22	電気刺激療法：TENS、TES、FES の各種手技を学ぶ	[担当] 石井	講義	教科書 (p.159～235) を読み、電気刺激療法について予習する。
23	電気刺激療法：TENS、TES、FES の各種手技を学ぶ	[担当] 石井	講義	教科書 (p.159～235) を読み、電気刺激療法について予習する。
24	電気刺激療法：TENS、TES、FES の各種手技を学ぶ	[担当] 石井	講義	教科書 (p.159～235) を読み、電気刺激療法について予習する。
25	物理療法実習②-1：寒冷療法、水治療法機器操作や メンテナンス方法を習得し、各種物理療法の実施 方法について学ぶ。	[担当] 源・石井・三科	実習・GW	13、21、22 回目の講義内容を復習し、実習の準備を行う
26	物理療法実習②-1：寒冷療法、水治療法機器操作や メンテナンス方法を習得し、各種物理療法の実施 方法について学ぶ。	[担当] 源・石井・三科	実習・GW	13、21、22 回目の講義内容を復習し、実習の準備を行う
27	物理療法実習②-2：電気刺激療法、牽引療法機器操作やメンテナンス方法を習得し、各種物理療法の実施方法について学ぶ。	[担当] 源・石井・三科	実習・GW	13、21、22 回目の講義内容を復習し、実習の準備を行う
28	物理療法実習②-2：電気刺激療法、牽引療法機器操作やメンテナンス方法を習得し、各種物理療法の実施方法について学ぶ。	[担当] 源・石井・三科	実習・GW	13、21、22 回目の講義内容を復習し、実習の準備を行う
29	物理療法の臨床応用について学ぶ	[担当] 三科	講義	これまで配布された資料を用いて復習を行う。
30	これまでの学習の総括	[担当] 三科	講義	これまで配布された資料を用いて復習を行う。
試	定期試験 達成度評価・評価のポイント参照			

達成度評価

総合評価割合 (%)		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	合計
		80	20	0	0	0	100
総合力指	知識・技術力	80	5	0	0	0	85
	思考・推論・創造する力	0	0	0	0	0	0
	協調性・リーダーシップ	0	0	0	0	0	0
	発表・表現伝達する力	0	5	0	0	0	5

【2026 年度/専門科目領域/専門科目群/リハビリテーション学科 理学療法学コース】

	コミュニケーション力	0	0	0	0	0	0
	取組みの姿勢・意欲	0	5	0	0	0	5
	問題を発見・解決する力	0	5	0	0	0	5
評価のポイント							フィードバックの方法
評価方法	行動目標	評価の実施方法と注意点					
試験	①	✓	学期末に定期試験を実施し評価する(80%)。試験では教科書および配布資料の内容を基に応用出題を出題し、理解度を問う。				試験返却時に解説を行う。
	②	✓					
	③	✓					
	④						
	⑤						
	⑥						
レポート	①		合計 8 回行われる物理療法実習時にレポートを課す。レポート内容、採点基準は各実習時に提示する(物理療法実習①:10%、物理療法実習②:10%)				レポート返却時にフィードバックを行う。
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						

評価のポイント							フィードバックの方法
評価方法	行動目標	評価の実施方法と注意点					
成果発表	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
ポートフォリオ	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
その他	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						

備 考

他 担 当 教 員	源 裕 介、石 井 智 也
教員の実務経験	全ての教員が理学療法士として 5 年以上の臨床経験を有する。
実践的授業の内容	理学療法士として病院等で勤務経験を有する教員が各疾患に対する物理療法に関する基本的知識と技能を教授する。
そ の 他	<p>受講する際の注意事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 受講態度に問題がある場合は退室してもらう。 ・ 物理療法は、物理的エネルギーを利用するため使用方法を誤ると重大な事故を招く可能性があるため、教員の指示に従うこと。注意しても守れない学生は退室してもらう。 ・ 実習時は、肌を露出しやすく、動きやすい服装で臨むこと。 ・ 大学が公表している感染対策および教員が示す授業方法を遵守すること。問題がある場合は対面授業の参加を認めない。 ・ 同じ時間帯で隔週開講の「小児理学療法学」や本講義の進行状況によって、シラバスの内容を一部変更することがある。

